

景況レポート

(1月分・情報連絡員60名)

緊急事態宣言の発出、大雪や暴風等の影響により景況DI値はやや悪化

【概況(全体)】

1月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向きが3.3%(前回調査1.7%)、「悪化」が68.3%(同64.4%)で、業界全体のDI値は-65.0となり、前月調査と比較し2.3ポイント下回った。

全国及び東北・北海道ブロックもやや悪化した。新型コロナウイルス拡大の影響により、各種GoToキャンペーン事業が中断されたことに加え、大都市圏を中心に緊急事態宣言が再発出され、発出地域に加え、それ以外の地域においても生産活動や消費活動が停滞することになり、幅広い業種で影響を受けている。

【業界別の状況】

新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言発出の影響を受け、製造業では、受注の減少により工場稼働率が低下し、非製造業では、売上が減少した業種が多かった。

また、大雪や暴風による影響が様々な業種に広がり、売上や受注が減少した業種の他、増加した業種もみられるなど、業種や業界によって、景況判断が分かれる結果となった。

<全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較>

	秋田県	全 国	東北・北海道
全 体	-65.0	-58.0	-57.5
製 造 業	-79.2	-60.9	-59.8
非製造業	-55.5	-55.7	-56.2

<景況天気図>

項目	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業							
非製造業							

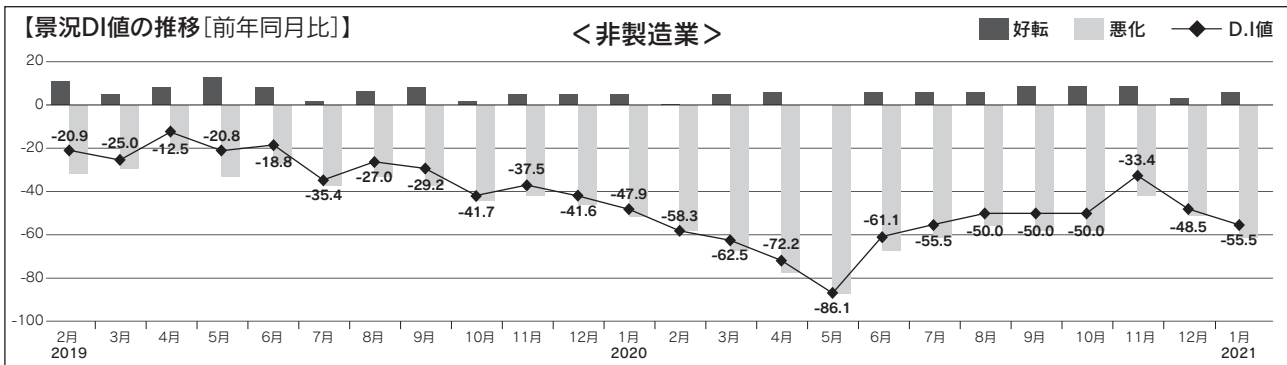
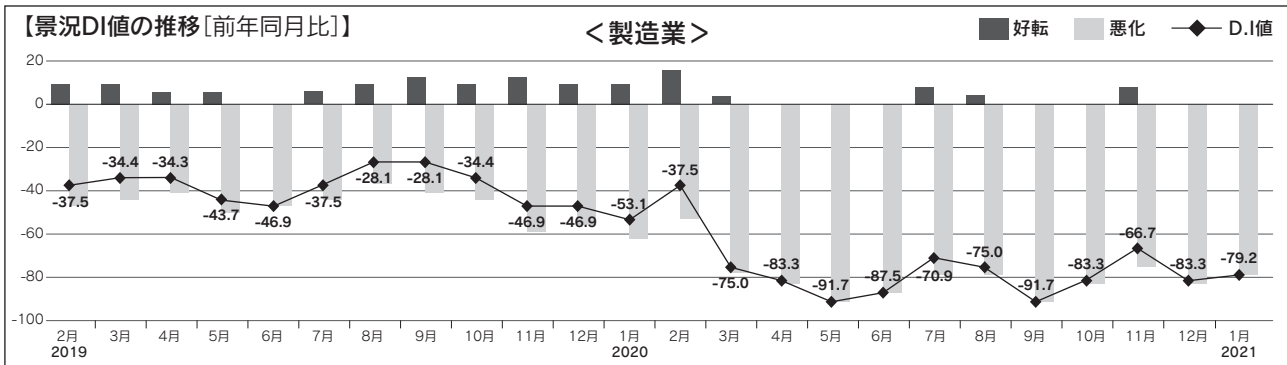
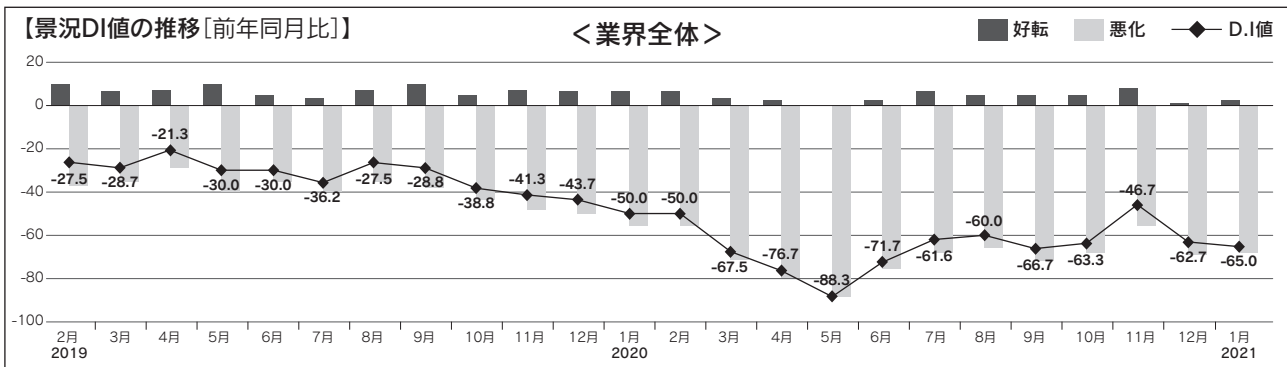
【凡例】
 快晴 30以上
 晴れ 10以上 30未満
 曇り △10以上 △30未満
 雨 △10未満
 雷雨 △30以下
 【天気図の見方】
 前年同月比のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

【業界の声】 ~製造業~

(回答数：24名 回答率：100%)

食 料 品 (豆 腐)	緊急事態宣言の影響が地方にも波及したため、飲食店や宴会場からの受注が激減し、売上が10%以上減少した。中国の穀物需要が増えたため、アメリカやカナダの大豆が高騰し、原価に反映されたものの、大手メーカーでは値上げの動きが全くないため、中小企業も値上げできず、経営環境は厳しい。
食 料 品 (パ ン)	大雪や台風並みの暴風により、広範囲で停電が発生した影響でパンが売れ、スーパーやコンビニでは品切れ状態となったものの、売上は前年同月並みとなった。
食 料 品 (精 穀 ・ 製 粉)	帰省客の少ない年末年始であったため、おみやげ品向けの原料は動きが鈍かった。また、首都圏等への緊急事態宣言の発出後、全体的に低調となった。
織 維 工 業 (織 維)	新型コロナウイルス陽性者が増えたことによる緊急事態宣言が首都圏で発令され、アパレル業者が苦境に立たされる中、組合員企業においてもアパレル業者からの受注量が激減したが、厚生労働省からの依頼で医療用ガウンを製造し、かろうじて生産ラインを稼働させている状況である。ただし、価格は公募により値崩れしており、採算が取れない状況にある。(中央地区)
木材・木製品 (一 般 製 材)	製品販売高は前年同月比で10.7%減少し、新型コロナウイルスの感染拡大が要因と思われる。1月は冷え込みが厳しく、原木(丸太)が凍結し製品の生産量も減少している。3月の注文に対応するため、2月は増産を計画しているが原木在庫が恒常的に不足しており、2~3月の入荷状況が心配な状況である。
窯業・土石製品 (生 コ ン グ リ ー ト)	出荷数量は前年同月比77.9%、4月~1月累計で93.8%となった。特に県南部で大雪の影響から前年同月比42.1%と大幅な減となった。今月は組合員企業が集約され、2社減少した。来年度の出荷数量については、各地区から提示された予測数量を基に612,000㎡と想定した。
鉄鋼・金属 (鉄 鋼)	新型コロナウイルスの影響と、例年の冬物の工事不足とが重なり、全く先が見えない状況が続いている。多少の差はあると思われるが、業界全体が最悪の状況に移行しつつあると考えられる。
一 般 機 器 (金 属 加 工)	受注面では、一部を除き、大半が前年同月を下回っており、雇用調整助成金を受けているところが多い。納期単価が厳しい状況は変わらない。
その他の製造業 (漆 器)	1月は、大雪等が影響し、工芸館の来客数と売上高の減少は開館以来の厳しい数字となった。湯沢市の支援事業では、市内への観光客に特産品の中からプレゼントする企画があり、川連漆器も取り扱いがあるので、顧客の新規開拓を期待している。



【業界の声】 ~非製造業~

(回答数：36名 回答率：100%)

卸売業 (青果)	前年同月比105.9%で推移した。1月は、例年にない積雪や強風の発生等悪天候の影響が大きく、顧客の購買力低下による売上の低迷が予想されたが、悪天候の合間にまとめ買いするなど購買意識が高まり、結果的には前年を上回る実績となった。コロナ禍により、ホテル・結婚式場・一般飲食店等への売上低迷は依然として続いているが、逆に自宅での食事の増加により、量販店では売上の維持・増加につながった。
小売業 (みやげ品)	前年同月は冬にもかかわらず、1日平均売上は10万円以上であったが、今月は毎日売上が0の状態である。
小売業 (電機)	前年同月比124.5%と好調であった。特に売れたのは、エアコン、エコキュート、テレビ、空気清浄機等であった。1月7~8日の暴風による停電で給湯器の凍結等が発生したことも一因と思われる。大雪によるアンテナの倒伏が各地で発生し、立て直し工事が数多くあった。
商店街	生花販売と食料品販売は1割減、家電販売は微増、酒類販売は2割減、身の回り品販売は大雪の影響による雪べら等の在庫販売により1割増となった。(秋田市) 厳しい状況は変わらない。進級・入学シーズンを迎え、関連業種は動きが出始めている。(大館市)
サービス業 (旅行)	1月分は、取扱全種で0となった。GoToトラベル中止と県内での感染の発生が増加し旅行意欲を減退させている。また、中小業者が得意とする職場旅行が支援対象外のため苦戦している。
サービス業 (タクシー)	全県の運行回数(対前年同月比)は73.4%、運送収入(同)は71.6%となった。大雪によりJRやバスが運休したため、一部地域ではタクシー需要につながったが、首都圏との往来や病院でのクラスター発生により人の流れが少なく、厳しい状況は続いている。また、雇用調整助成金を利用して他、夜間営業の時間短縮や休業により稼働車両が減少している。
建設業 (電気工事)	受注件数はここ数年に比べ、格段に落ち込んでいるほか、豪雪により工期が遅れている。(県南地区)
運輸業 (トラック)	1月は年末年始休暇や大雪の影響もあり、荷動きは良くなかった。例年良くない月ではあるが、大雪のため交通状況が悪く、効率も悪かったようである。前月比では売上、収益ともに減少しており、前年同月比でも減少している。燃料価格は大幅に値上がりしており、ここ数ヶ月の燃料価格の値上がりも、収益状況悪化の要因と思われる。2月も引き続き値上がりが見込まれている。(県南地区)